

令和7年度 第1回磐田市地域公共交通会議 議事録

(敬称略)

日時	令和7年6月2日(月) 10時00分～11時00分
場所	ワークピア磐田2階 視聴覚室
出席者	<p>委員</p> <p>川口 宗敏 (静岡文化芸術大学名誉教授)</p> <p>鈴木 喜文 (磐田市議会議長)</p> <p>平岩 成美 (中部運輸局静岡運輸支局運輸企画専門官)【代理】</p> <p>山本 あす香 (静岡県交通基盤部都市局地域交通課)【代理】</p> <p>山崎 優 (静岡県袋井土木事務所企画検査課長)</p> <p>土屋 純一 (磐田警察署交通課長)</p> <p>村田 雅俊 (袋井市総務部長)</p> <p>吉野 博行 (磐田市自治会連合会副会長)</p> <p>伊藤 小織 (磐田市竜洋地域包括支援センター)【代理】</p> <p>平谷 均 (磐田商工会議所専務理事)</p> <p>山下 六機 (磐田市老人クラブ連合会会長)</p> <p>神谷 剛志 (公募委員)</p> <p>石田 博久 (遠州鉄道株式会社運輸事業部長)</p> <p>山田 光 (秋葉バスサービス株式会社取締役社長)</p> <p>大久保 公雄 (浜松バス株式会社代表取締役社長)</p> <p>服部 光真 (遠鉄タクシー株式会社運行営業部長)</p> <p>内野 昌美 (磐田市副市長)</p> <p>事務局</p> <p>伊藤自治市民部長</p> <p>自治デザイン課：山下課長、谷野主幹、小野田主任、倉谷副主任</p>
欠席者	<p>富田 倫代 (磐田市民生委員児童委員協議会副会長)</p> <p>田中 友親 (遠州鉄道労働組合執行委員長)</p> <p>堀内 哲郎 (静岡県バス協会)</p>
傍聴者	なし
議案等	<p>報告事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告第1号 令和6年度デマンド型乗合タクシーの実績報告について</li> <li>・報告第2号 令和6年度磐田市自主運行バス掛塚磐田駅線の報告について</li> <li>・報告第3号 令和6年度モニタリングシートの報告について</li> </ul>

	<p>協議事項</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・議案第1号 デマンド型乗合タクシーの運行内容の見直しについて</li> <li>・議案第2号 地域内フィーダー系統確保維持改善計画について</li> </ul>
<p>会議記録</p>	<p>1 開会</p> <p>2 会長挨拶 (事務局) 委員名簿のとおり紹介</p> <p>3 報告事項</p> <p>(1)報告第1号 令和6年度デマンド型乗合タクシーの実績報告について (事務局) 資料に沿って説明</p> <p>(委員) 質疑なし</p> <p>(2)報告第2号 令和6年度モニタリングシートの報告について (事務局) 資料に沿って説明</p> <p>(委員) 質疑なし</p> <p>(3)報告第3号 令和6年度磐田市自主運行バス掛塚磐田駅線の報告について (事務局) 資料に沿って説明</p> <p>(委員) デマンド型乗合タクシーについて、地区外施設の利用を望む声が多い中で、利便性を向上させることは、実施事業者に負担を強いることになると考える。地区外施設の利用と利便性向上についての方向性は。</p> <p>(事務局) 各地区で施設の立地に差がある現状から、見直しを図っていくことを検討している。料金についても、安価であることが望ましいが、バスやタクシーなどの公共交通全体のバランスをみて、事業者と協議していく。</p>

(委員)

運転免許証返納者に対する補助は、地域の安全確保のための1つの施策であるが、補助の在り方として、安全施策と公共交通の維持とでは、違う切り口の負担の仕方があってもよいと考える。

また、増加している負担は、地域の安全を確保するためでもあると、使途を明確にすれば、この補助の意味を別の視点で評価できると考える。

#### 4 協議事項3

(1)議案第1号 デマンド型乗合タクシーの運行内容見直しについて

(事務局)

資料に沿って説明

(委員)

質疑なし

#### 【決議】

承認（委員17名中17名合意）

(2)議案第2号 地域内フィーダー系統確保維持改善計画について

(事務局)

資料に沿って説明

(委員)

2路線以外が逆になぜ補助金の対象にならないのか。

(事務局)

フィーダーとは枝という意味であり、地域の交通結節点まで移動する地域内の交通手段が本補助金の対象となっている。本市の交通結節点は駅やバス停になるが、該当路線以外は利用者数が少なく、条件を満たせていないため。

(委員)

豊田の中には豊田町駅があり、福田は御厨駅、竜洋は豊田町駅を利用する人が多いが、福田、竜洋は駅が地区外のため利用者数には含まれないという認識でよいか。

(事務局)

福田、竜洋に関する補助要件の認識について不明確であるため、改めて確認しておく。

なお、本2路線については国庫補助、他の路線については県から補助を受けている。

**【決議】**

承認（委員 17 名中 17 名合意）

5 その他

(1)2025 小学生バス無料デーの実施について

(静岡県地域交通課)

資料に沿って説明

(委員)

鉄道事業者と共同で実施するのは難しいのか。鉄道事業者が参加すれば、より大きく盛り上がると考える。

(静岡県地域交通課)

県の事業担当者に提案があったことを報告し、今後の検討材料とさせていただく。

(2)広域生活バスの運賃改定について

(事務局)

資料に沿って説明

(委員)

質疑なし

質疑応答～全体を通して～

(委員)

「磐田市地域公共交通計画」の中にある、「新規路線の検討」という計画自体を、市民の生活実態に即して見直す必要があるのではないだろうか。

また、近年、自動運転技術が急速に発展している中で、注目を集めているのがグリーンスローモビリティである。先進事例では、廃線跡の活用が先端技術導入の重要なポイントとなっており、自動走行車両の運用には、走行環境との関係が非常に重要であることがわかる。「磐田市地域公共交通計画」は「磐田市都市計画マスタープラン」や「磐田市立地適正化計画」と連携した形で位置付けられている。したがって、まちづくりの方向性と公共交通の在り方を一体的に考える必要がある。こうした点を考慮に入れ、計画の見直しを行っていただきたいと思う。

(事務局)

磐田市地域公共交通計画は令和9年までであり、今後は本協議を踏まえて検討していく。グリーンスローモビリティに関しては、本市は有人ではあるが、ヤマハ発動機株式会社が通勤時間帯に自動車と並走する形で運行を開始した。データを共有してもらい、分析し、本市の計画にも反映していきたい。

6 閉会